

【プレスリリース】三次市立図書館発「おとなの寺子屋」



◎スカイプを活用したユニークな試み

ここ数年で、大学や民間企業等におけるスカイプ（Skype）を活用した様々な講座（マンツーマン式の語学講座、大学と小学校を繋ぐスカイプ授業等）が急速に普及していますが、公立図書館等ではカイクを活用した遠隔教育やeラーニングの試みはあまり例がありません（現状では、スカイプ自体の講座、スカイプを活用したレファレンス、障害者向けの手話通訳サービス等に限られる）。

◎リアルとバーチャルの融合

今回ご案内の三次市立図書館発「おとなの寺子屋」は、全7回のうち、6回をスカイプによる遠隔教育、最終回を講師が三次市に赴いて行う公開講座の形式で、三次市重要文化財「往来本」を学ぶ講座です。前者は、埼玉県蕨市の講師（小泉）宅のPCと三次市立図書館の専用PCをスカイプのテレビ電話で繋ぎ、その映像をプロジェクターによって会場に映し出します（以下「三次方式」と呼びます）。*最終回には受講生との懇親会も計画中

◎三次方式のメリット——ネットワーク・フットワーク・チームワークでより良い姿を模索

- ①**安価・簡便なシステム**——比較的安価にシステムが構築でき（システムの詳細は図書館にお尋ねください）、講師PCの設定も簡便で、他機関等でも導入しやすく、各種講座に応用できること。
- ②**誰でも利用できる講座**——会場に集まるという制約はある反面、受講者にPCの準備やITリテラシーを要求しないため、誰でも受講できること。
- ③**膨大なデジタル画像の活用**——画面共有の機能（講師側からも三次側からも可能）により三次本の画像だけでなく、講師が自らデジタル化した古典籍データ（往来物倶楽部デジタルアーカイブス、約4200点、32万5000コマ）の鮮明画像を即座に掲示できること。
- ④**ポインター・板書・WEB頁掲載も**——上記画像や配付資料を画面に掲示し、ポインター機能が使えること。PCのメモ帳機能は板書代わりになり、音読・解説の際に該当頁をリアルタイムに掲示可能。また、必要に応じてWEBページの掲載も可能で、教室での座学以上のメリットもある。
- ⑤**距離感を全く感じさせない方式**——現在の会場の場合、会場でのマイクの移動なしに、質疑応答が可能なこと。音声も途切れず、距離感をほとんど感じさせないこと（途中の10分休憩時の質問も後半分冒頭で回答可能）。
- ⑥**その場で改善、迅速なフィードバック**——講座修了後、毎回30～60分程度の反省会をテレビ電話で行い、評価と課題・改善策をその場で協議できること。会場で集めた受講生のアンケート（感想・質問等）結果も、数日以内に講師宛メールで届く。

まだ試行錯誤の現状ですが、以上のようなネットワークと、関係者のフットワーク・チームワークで、回を追うごとに改善、充実してきました。

三次市立図書館発「おとなの寺子屋」の経緯と関連情報

■三次市重要文化財「往来本」デジタル化と、「おとなの寺子屋」開講の経緯

往来本は一般に「往来物」と呼ばれ、平安時代後期から明治・大正初期までに作られた読み書き教科書の総称です。その淵源は、平安貴族子弟の手習い教材として手紙文が題材とされ、手紙の往復文(往状・返状)を収録したことから「往来物」と呼ばれるようになりました。中世以降は語彙習得のための種々の工夫がなされ、さらに江戸時代に入ってから庶民の読み書き教材として寺子屋(手習塾)等でさかんに使用され、地域独自の往来物など多種多様の往来物が誕生しました。出版された往来物は少なくとも8000種以上ありますが、手習師匠が独自に編んだものを含めると数万種に及ぶと推定されます。

三次市立図書館の往来本612点(一部、往来本以外を含む)は、図書館設立の契機となっただけでなく、日本有数の貴重なコレクションとして戦前から多くの研究者に注目され、研究されてきました。昭和37年(1962)には三次市重要文化財に指定されましたが、残念ながら市民一般には余り知られていません。

公益財団法人図書館振興財団の平成29年度振興助成を受け、「往来本」612点より特に貴重な196点を選んでデジタル化を進め、平成30年4月に一般公開しました(デジタル化資料の選定や各資料の解題は小泉が担当)が、それに先駆けて同年2月25日に小泉が三次市を訪れ、「往来物の世界—三次市往来本の価値と位置—」と題して講演を行いました。その際、市の重要文化財の指定を受けてから半世紀以上を経過しつつも、往来本の存在について市民にはほとんど知られていない現状に対し、「定期的な往来本の講座を始めてはどうか」「図書館職員にも勉強して頂くことが大切」と提言し、予算の関係からネットを活用した講座が検討されました。

その結果、初年度は15名定員で、全7回(第1-6回はスカイプを使用したネット講座、第7回は講師が三次市を訪れて行う講座)の「おとなの寺子屋」が平成30年9月に開講しました。本講座では、毎回、貴重な往来本を取り上げ、その魅力や意義を分かりやすく解説します。受講者の特典として小泉が無償提供する往来物のデジタル画像のダウンロードサービスが受けられほか、「三次市立図書館・往来本デジタルアーカイブ」により、いつでも、どこでもパソコン・スマホで原本を読むことができます。

●**三次本の由来**——約100年前から蒐集開始、戦争中に三次に疎開して守られたコレクションです。

①黒崎貞枝(奈良之助、1867-1937、71歳)

- * 平井右平の叔父。慶応3年(1867)7月、和歌山県生。大阪美術倶楽部書記長として活躍。
- * 明治中期から多数の古典籍を蒐集したが財産整理のため全て処分され、その後再び蒐集した資料は江戸文学全般のあらゆる分野に及び、8000冊近くに達した(玖侶社記(くろさき)文庫)。
- * 昭和10年(1935)11/25~12/20、大阪城天守閣で「往来本展覧会」で483冊を展示(この頃の往来本総点数は推計で約700冊余)。
- * 昭和12年(1937)3月11日、71歳没後、大阪の鹿田(しかだ)松雲堂を通じて大阪書林倶楽部の入札会で処分→往来本のみは子息の黒崎羊太郎氏が受け継ぐ。

②平井右平(1883-1950、66歳)

- * 明治18年(1883)8月、京都三条大宮生。京都工芸専門学校(現、京都工芸繊維大学)教諭、染物工場経営。
- * 昭和19年(1944)3月11日、玖侶社記文庫の往来物(610冊*うち51冊貴重本)を全て買い取る→戦況悪化のため三次町に疎開。
- * 昭和22年(1947)7月、三次に永住→文芸サークル「惜春会」に参加した縁で、同会の拠点であった吉祥院に往来本(三次文庫)の保管を依頼。彼の願いは、①三次に図書館を作ることと、②三次に熱心な民俗学研究者を育成することであった。
- * 昭和25年(1950)3月30日に永眠。

③三次町立図書館

- * 昭和27年2月1日開館。往来本は同図書館受け入れ第1号→昭和29年3月31日市制実施で市立図書館となる。
- * 昭和37年4月25日、「三次市重要文化財」に指定。

三次市重要文化財の往来本は、各分野をほぼ網羅し、特に現存唯一の稀覯書が多数含まれます。「おとなの寺子屋」では、各講座につき特定の往来本にスポットライトを当て、往来本とその背景にある江戸時代の生活や文化、日本の伝統や日本人の思想などを読み解いていきます。

* 三次市立図書館発「おとなの寺子屋」は、三次市重要文化財「往来本」の講座です。

* 全7回のうち6回は、埼玉県講師と三次市立図書館をインターネットで結ぶ遠隔教育(写真参照)で、最終回(第7回)は講師が三次市を訪れ、公開講座の形式で実施。



- 会 場——三次市立図書館2階多目的室 * 第7回の公開講座のみ三次市民ホール(きりり)
- 対 象——どなたでも参加できます。
- 定 員——15名(申込先着順)
- 受講料——7回通し券 6000円

■関連の新聞報道

県北

三次支局
庄原支局
安芸高田支局
東城ステーション

☎0824(63)5155 FAX(65)0088
☎0824(72)0149 FAX(75)0029
☎0826(43)0063 FAX(47)0020
☎0847(72)0560

「往来本」の世界学ぼう

平安—明治時代の教科書

三次市立図書館は9月、平安時代から明治時代にかけて寺子屋などで教科書として使われた「往来本」について学ぶ連続講座「おとなの寺子屋」を同市十日市東の同館で始める。同館は西日本の公立図書館で最多とされる612点の往来本を所蔵しており、「貴重な往来本の世界を、多くの人により深く知ってほしい」と企画した。

(八百村耕平)

小泉さん(左の画面)とインターネット電話でつなぎ、講座のリハーサルをする図書館職員

第3金曜日に計画。初回は9月21日に開く。講師は往来本を研究する法政大講師の小泉吉永さん59。堀玉県蔵市。初回から第6回まではインターネット電話を通して、往来本の内容や歴史的価値などを解説する。最終回は、小泉さんが三次市に出向き直接講演する。

三次市立図書館 21日から7回講座

同館の往来本は、三身の三次町立図書館の広く、希少本も多いと次町に住んでいた平井受け入れ図書第1号と右平氏(1883)として寄贈された。「地

950年」が所有。平「理」や「語彙」「歴史」往来本のうち196点井氏の死後、同館の前「産業」など分野は幅をデジタル化し、ホー

ムページで公開するなど、周知に力を入れている。市民により理解を深めてもらおうと連続講座を企画した。

講座は2019年3月16日までの全7回で、最終回を除き毎月

継続して開く考え。有光七重館長の52は「往来本には現代にも通じる教訓があり、内容も分かりやすく楽しく読める。予備知識なく参加できるので、気軽に来てほしい」と呼び掛ける。

受講料は全回通して6千円。定員15人で、9月9日までに電話で同館に申し込む。同館☎0824(62)2639。

広島県は「往来物」研究の一大拠点——と言ってもぴんとくる人は少ないかもしれない。往来物は主に江戸時代、寺子屋で使われた教科書だ。県内では三次市立図書館が、西日本最多とされる612点を所蔵。県立文書館(広島市中区)も200点以上を収める。当時の社会の多彩な側面を知る興味深い史料だ。(城戸良彰)

広島藩が町村に配布した「教訓道しるべ」の版本(児玉家文書)⑥。往来物としても使われ、子どもによる書写本(海城家文書)⑦が残る

(広島県立文書館蔵)

「往来物」研究 深化の広島

寺子屋の教科書



三次市立図書館は所蔵する往来物の一部をデジタル化し、HPで公開している

教化政策・民の関心映す

三次市立図書館 所蔵196点デジタル化

往来とは手紙の行き来のこと。平安時代後期、貴族が手紙の文例集を読み書きの手本としたのが由来とされる。江戸時代には寺子屋が普及。手紙に限らず、庶民向けに農業の言葉や心構え、地理や教訓など、さまざまなジャンルが生まれた。

三次市立図書館は1月、所蔵の往来物から特に貴重な196点の往来物から特に貴重な196点の往来物をデジタル化し、HPで公開している。所蔵の往来物から特に貴重な196点の往来物をデジタル化し、HPで公開している。

96点をデジタル化し、ホームページ(HP)で公開。全点に解題を付し、一部は活字に直した釈文も載せた。有光寺重信(52)は「学術研究や崩し字学習など、幅広く役立ててほしい」と話す。

公開史料の中で「字林往来」は江戸中期、1716年刊の産業本。商品発注書の体裁で、日用品や食品などの名前を列挙して「八雲山の晴風」など、こ

当地の名勝も教える。往来物研究家で法政大講師の小泉吉永さん(59)は「自分の住む土地や近隣の地名などは当時、必須の知識だった」と説く。

ただ、庶民の興味はローカルにとどまらない。「寺社参詣や行商の心得を記した旅行ガイドに近いものもある」と小泉さん。戯作者十返舎一九も「東海道中膝栗毛」の取材を生かしてか、「伊勢参宮往来」「金毘羅詣」などの往来物を著したという。「最低限の読み書きから発展し、精神的豊かさを求めるようになった庶民の関心の広がりも反映している」と強調する。

県内では多数の往来物が保存される一方、使用実態は明確ではない。同図書館の所蔵品は、大阪の収集家によって戦前に収集され、戦後三次へ移り住んだ親戚から寄贈されたものだ。地元で史料の発掘が待たれるのが現状で、原爆により多くの史料が失われた広島市も同様だ。

しかし、江戸時代の広島は瀬戸内海航路の要地として栄え、全国有数の出版文化が花開いたとされる。地域のニーズに即した独自の往来物が発版されていた可能性も十分にある。

県立文書館の史料から、その一端をうかがうことができる。18世紀末の「教訓道しるべ」は、広島藩が藩内の書店に命じて刷らせた、全国的にも珍しい民衆向けの教訓書だ。

「親に孝行を尽くす」「郷里に親しむ」といった徳目を、読み仮名が振られた平易な文章で諭す。町村役人を通して配られ、往来物としても使われた。

同文書館の西村晃総括研究員(59)は「一揆の発生に悩んだ広島藩は往来物を通じた領民の教化に熱心だった」と指摘。以後幕末まで藩内で大きな騒動はなかったとし、「教育の在り方について示唆に富む。往来物は研究テーマの宝庫だ」と話す。

三次で研究家の小泉さん講演会



三次市立図書館所蔵の往来物の魅力や特徴を紹介する小泉さん(右端)

平安時代以降に書かれ、大正時代までに手習いの教科書として使われてきた「往来物」への理解を深める講演会が25日、三次市三次町の市民ホールきりりであった。法政大講師で研究家の小泉吉永さん(59)は、同市立図書館が所蔵する612点を「西日本で一番多い。あらゆる分野を網羅し、ここにしかないものが目立つ」と強調した。(高橋穂)

「往来物」日本文化の縮図

図書館所蔵「希少本多い」

小泉さんは往来物について「当初は手紙の文例をまとめたものが、地理や歴史、生活の心構えに至るまで、さまざまなジャンルが生まれた」と紹介。「日本文化の縮図であり、深く知る契機となる」と魅力を語った。同図書館所蔵の往来物は「往来本」の名称で市重要文化財に指定され、196点がデジタル化、ホームページ(HP)で公開されている。デジタル化や目録作りに関わった小泉さんは、その特徴を「江戸時代より前に書かれた古往来が多く、全国各地の名所や産業に関する書籍が

そろっている」と説明した。

さらに、武士の間でやり取りしたと思われる消息文例の鎌倉往来(室町時代)や、出雲大社の由来と周辺の名所を記した杵築往来(江戸時代)といった「希少本が目立つ」と紹介。地理の往来物について「三次に関するものがなく残念だが、埋もれた資料を発掘するチャンスはある。往来物を大切に活用してほしい」と締めくくった。

同市海渡町の主婦新見理恵さん(59)は「三次の貴重な資料。時代ごとの生活や考え方が反映されていて興味深く、HPで見たい」と話していた。

講演会は同図書館が主催し、市民たち約70人が耳を傾けた。

■関連WEBサイト

*おとなの寺子屋一ネットで学ぶ往来本 <https://tosho.city.miyoshi.hiroshima.jp/topics/topics2018-0811.html>

*三次市立図書館「往来本」デジタルアーカイブ <https://trc-adeac.trc.co.jp/WJ11C0/WJJS02U/3420905100>

*往来物倶楽部(小泉HP*ダウンロードサービス) http://www.bekkoame.ne.jp/ha/a_r/indexOurai.htm